愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	伊藤 恵美子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

このゼミは、大学生として知っておきたい現代社会（日本だけでなく国際社会）に関する知識を豊かにするとともに、その背景についても理解を深めることを目的とします。学生は新聞を読んで「面白い！」と思ったニュースを「私が選んだ今週のニュース」として選び、ニュースの背景について考え、クラスでプレゼンテーションを行います。発表を聞いた学生は全員、発表者に質問して意見を必ず述べます。発表したニュースは、最終的にレポートにまとめて提出します。この過程で、情報収集の能力、口頭表現・文章表現の能力を養います。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は演習方式で行います。 発表者のプレゼンテーションを傾聴し、それに基づくディスカッションにより進めていきます。 これまでの学修で得た知識を基にニュースの背景を深堀り、考察して、レポート作成に至ります。 無断欠席は認められないので留意すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と成績評価について説明、自己紹介、個人面談（1）	□
第2回	2025年度年間計画	2年次学修と学生生活の計画、グループ分け、個人面談（2）	□
第3回	発表Aグループ（1）	Aグループのプレゼンテーション（1）	□
第4回	ニュースの背景	先週のニュースの深堀り	□
第5回	発表Bグループ（1）	Bグループのプレゼンテーション（1）	□
第6回	ニュースの背景	先週のニュースの深堀り	□
第7回	発表Aグループ（2）	Aグループのプレゼンテーション（2）	□
第8回	ニュースの背景	先週のニュースの深堀り	□
第9回	発表Bグループ（2）	Bグループのプレゼンテーション（2）	□
第10回	ニュースの背景	先週のニュースの深堀り	□
第11回	レポートの書き方	基本的なルールの確認	□
第12回	下書きレポートの提出	レポートの下書き	□
第13回	添削されたレポートの修正	文法項目・表現形式の検討	□
第14回	清書レポートの提出	レポートの推敲から、清書へ	□
第15回	まとめ	全体のまとめ	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

1週間の新聞各紙の記事を読んで比較すること（2時間程度）。読んだ記事の中から「私が選んだ今週のニュース」を切り抜き、その背景を考えること（1時間程度）。ニュースと考えた背景を、レジュメに簡潔にまとめること（1時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

発表したニュースについて、クラスで議論して共有します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)

知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	大学生として必要な知識・情報が収集できるようになる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	現代社会に関する理解が深まる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	自ら考えて判断したことを発表し、文章にまとめることができるようになる。 仲間のプレゼンテーションが傾聴できるようになる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験：レポート（40）　その他：レジュメの内容（30）、発表に対するコメント（30）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	近藤裕子・由井恭子・春日美穂（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房【購入必須】	978-4-89476-970-0
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	村岡貴子・因京子・仁科喜久子（2013）『論文作成のための文章力向上プログラム：アカデミック・ライティングの核心をつかむ』大阪大学出版会	
2		
3		
4		
5		